

事後評価報告書（日本－インド研究交流）

1. 研究課題名：「人工衛星レーダによるICTを利用した農業に関する先進情報システム」

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：

新潟大学 大学院 自然科学研究科 教授 山口 芳雄

2-2. インド側研究代表者：

インド工科大学ルーキー 電子・コンピュータ学科 准教授 Dhamendra Singh

3. 総合評価：（ B ）

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

想定外の外的要因で、衛星レーダの使用にかなりの制限がされたため、取得データが不十分となったが、理論的な面でしっかり成果を残せたとみられる。特に、農業応用に適した偏波レーダデータの散乱電力分解手法を改良し、その効果を検証した点と円偏波基底を用いて散乱電力を評価する手法開発に成功した点は評価できる。ただ、インド側との協調の程度がやや見えにくく、また国内外の類似研究と比較した本研究の特徴に関する記述も不足している印象を受けた。

(2) 交流成果の評価について

データの収集と提供のインドとそのデータの解析の日本という位置づけのもと、活発に交流を行った。国際ワークショップ、セミナーなどを開催し、インド側からポスドクを新潟大で採用するなど人的面も含め、積極的に交流が行われた。本共同研究が大学間交流協定に向けて進められているとのことであるが、うまく締結できることを望む。

(3) その他（研究体制、成果の発表、成果の展開等）

研究体制は良く、共同研究成果として共著の学術論文発表に至っている。また、複数回のシンポジウム・ワークショップ等により、プロジェクト関係者だけでなく、幅広い研究交流ができたとみられる。外的要因によって取得データが少なかったため、当初目的から若干ずれた形にならざるを得なかった。そのため、それぞれが研究を深めるスタンスになってしまい、協調程度が当初予定よりも低くなったとみられる。これらの事情のため、今後の成果の展開については他の共同研究課題に比べ弱い。我が国の地球観測衛星が国際連携の研究に利用された点は大いに評価できる。